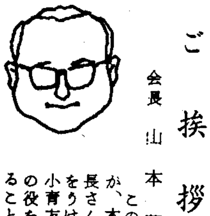
がんば

島三小育友会報
―発　行―
教養部会報班
―印　刷―
つるかわ印刷所

ご挨拶

会長　山本萬五郎



このたび私が、本田前会長さんのあとをうけて、三小育友会会長の役をつとめることになりました。

皆さんもよくご承知のように、私はまだ社会的経験も浅く、人間として、また仕事をする能力からいっても、至らない点ばかりですが、お引きうけした以上は一生けん命努力いたしたいと思っております。

どうか皆さんも、前会長さんにつくして下さいましたのと同様のご指導とご協力をたまわりますようお願いいたします。

特に私は、いわゆる「熱しやすく冷めやすい」性質です。なんでもはじめは相当に張切って頑張りますが、そのうちにだんだん冷めて来て、尻つぼみになりがちです。今後も恐らくそんなことがあることと思います。そのような時にはどうぞ遠慮なく、皆さんが自分の子どもをしつけられる時のようにどしどし叱ったりご指導をお願いいたしておきます。

育友会の仕事としては、前会長さんの時からやって来られたことを引きついで、又先日の総会で決められた事業計画にそって、前向きに進めて行きたいと考えております。具体的な実行計画は各専門部や皆さんの町内で決めておられ皆さんもご承知のことゝ思いますが、なんと云っても皆さんの積極的なご協力がなければやって行けません。どうか「他人事」としてでなく、自分たちの育友会であるという自覚をもって進んで参加して下さいますよう、この機会に特にお願いいたします。

子どもたちが待ちに待っているプール建設の工事も着々と進んでおります。実行委員の方々や会員の皆さん、また会員外の町内の皆さん方の地域ぐるみのご協力のおかげです。完工までもう一ふんばり、募金活動なども最後の追い込みをかけようではありませんか。

学校長　松本巖

昭和四十二年度はプール建設、校地拡張という大事業推進のための巨歩が進められた年でありました。それは白山地区二千八百戸のみな様の、大きな歴史を刻む足音高らかな巨歩であるとともに、学校にとりましては温かいご支援の鼓笛として有難く感謝しております。こうしたみな様の絶大なご支援に応える気持ちもありまして、ここ数年来国語教育に拠点をおいての、子どもの学力向上をめざし懸命の努力をしてきたつもりであります。殊に四十一年度、四十二年度は県の学力向上実験学校として国語教育研究発表会を開催し、先生方も大変な苦労をいたしましたが、おかげで好評を得、県教委からの感謝状を授与せられ相当の学力向上を見ることができました。これもまたみな様のご後援の賜と存じております。

こうして四十三年度を迎えたわけでありますが、今年はプール完工の年で本校九十六年の歴史の流れの上に美しい花びらの浮かぶ年となるのでありましょう。「輝かしい昭和四十三年」、この昭和四十三年度に学校の重点目標といたしましては　数年来研究を続けて国語教育から得た子どもの主体的思考学習態度を更に算数、社会、理科学習にまで転移応用させて　いっそう主体的思考学習を確立させる所存であります。国語の一教科でさえ骨の折れることであり、まだ全国どこも実施していない四教科へのひろがりは、非常な苦労の伴うことでありますが、じっくり腰をすえて取り組み、みな様のご厚情に報ゆるつもりであります。しかし　教育の分野は巾広いものであり調和のとれたものでなければなりませんので、あらゆる面に気をくばっていく必要があります。具体的な面は先般育友会総会や町内育友会でご説明申し上げたとおりであります。

どうぞ各ご家庭におかれては、あらためて次のことをお考えいただいて、よろしくご協力のほどお願いします。

家庭でいちばん大切なことは知的教育よりも、人間としての基本的行動様式（しつけ）であること。

学校でいちばん大切なことは、知的教育であり、それに道徳教育をよりあわせ、更に学校生活にあらわれてくる言動に対するしつけをしていくこと。

だからご家庭でのしつけが不足している場合は、それだけ不足分が学校教育の中に持ちこまれることになり学校教育のいろいろの部面がゆきとどかない教育になりがちである。

§ § § § § § § § §

≈≈≈ インタビュー ≈≈≈

「副会長　鐘ケ江氏を訪ねて」

猪原　今日はお忙しいところおじゃましてすみません。十七日の研修旅行に参加されていかがでしたか。

鐘ケ江　プールを持つ学校としては歴史も古いし、管理面の経験も豊富で今後、三小のプール使用についての参考になることが多かったと思います。それで研修旅行としての目的は充分達成されたのではないでしょうか。

上田　十五日の参観日に行かれての感想をお聞かせください。

鐘ケ江　今まで家内ばかりで私自身授業参観に行ったことがなかったのですが、この度はからずも副会長に選ばれ、ちょうど部会があるということで、学校に出かけていきいくつかの学級の教室をのぞかせてもらいました。そしてたまたま愛護学級の前を通りかゝりチヤイムが鳴るまで授業を見せてもらったわけです。

教室をのぞいて一番感じたことは、私の想像していた愛護学級というものと実際とちがっていたことです。つまり子どもたちが、よく発言もするし明るい雰囲気で融和的でしかも藤原先生の厳格さの中にも愛情あふれる指導の中で子ども達の先生に対する信頼感が満ちあふれた授業風景を参観させていただいたわけです。又授業の中で子どもたちと一緒に考えたり会話などかわしたりして非常に親しみを感じ何か友だちになったようなさわやかな気もちになって帰りました。

伊藤　「授業参観で各学級や、愛護学級に飛びこむという、行動力のある副会長さんをお迎えできて、本当に頼もしく思っておりますし、今後もその意気で積極的に育友会を育てて欲しいと思っているのですがいかがですか。」

鐘ケ江　大変おほめのお言葉をいただき恐縮です。私はPTAの役員としての経験も浅いので育友会の行事などにも機会あるごとに、出席しそれによって勉強をさせていただき微力乍ら何か皆様のお役にたてば幸いと思っております。

本田　かつて少年団のソフトボール指導もなさったそうですけれど、その時の何か印象がありましたらお願いします。

鐘ケ江　団体生活の好きな私が、ソフトボールを通じて子ども達と接する機会が多く、非常に楽しい思い出になりました。中でもほほえましいことは、今迄とちがって子ども達が親しくあいさつをしたり、話しかけたりしてくれることが、何よりも嬉しく又、校長先生のタッチイクオールラブと言う言葉を身をもって体験し代議員をして、いい勉強になったと思っています。

ベルマークを集めましょう

副会長　加藤和子

長年の宿願であったプール建設も、皆様の絶大なるご協力により五月より緒につき、やがて完成の暁には、子どもたちどんなにか喜ぶことでしょう。

その顔を見ることができるのも、もう間近になりました。学校の設備がひとつひとつ整えられるにつれて、教育の効果もさらにあがることを信じています。家庭生活の急速な変化を考えましても、学校だけが昔ながらの設備でとり残されることは、二十一世紀に生きる子どもたちへの冒どくだと思います。

でも、設備にはお金がかかります。学校の設備はもともと国がめんどうをみるべきですが、なかなか意に満たない現状ではないでしょうか。ところが「お金の心配をしないでわたしたちの学校がよくなり、僻地の学校をも援助できる」方法があります。ご存じのことは思いますが、それはこの運動に協賛している会社の製品や、その包装紙についている小さなベルマークを、切り取って学校へ持たせていただけばよいのです。なにげなく捨てる手をちよっと止めて切り取り、台所の片すみ、テレビの上の小さな箱などに入れて、ためていただけないでしょうか。学校でまとめて東京の助成会へ送りますと、島原三小の名で一点一円として貯金され、学校で必要とする品に代えられるのです。「一本が十本に、十本が百本に、百本が千本にふえていく」という子どもたちの歌っている歌を聞くにつけて、わたしたち会員一人一人のささやかな善意が、やがては千点となり万点となり、三小の子どもたちの幸せにつながることを想い浮べるのです。

私たちは一円も出さないで、自分達の学校に贈りものができるばかりでなく、遠くの恵まれない子どもたちまで喜ばせることができるのです。

ＰＴＡ一年生

山本富太

期待と不安で迎えた長女の入学、そして私はPTA一年生となって早くも二ケ月近くになります。大きなランドセルに埋まる様な格好で嬉々として通う子供をみてホッと胸をなでおろすこの頃です。これから六年間先生方の薫陶を受け健やかに成長してくれる様祈らずにはいられません。PTAに仲間入りして早々思いがけず学級代議員を仰せつかりました。何事にも消極的で出不精の私にはとてもつとまらないとお断りしましたがどうしてものことで止むなくお引受けしました。

何もかも分からないことばかりで戸惑っていますが先輩の方々よりご指導して頂きこの一年間精出すつもりでいます。専門部会では教養部の一員として仕事を手伝うことになりました。日頃不勉強の私には不向きかと思いますが、これから私もふくめて会員の教養をたかめ教育に対する理解を深めるために微力を傾けるつもりでいます。これまで新代議員会、総会、専門部会と出席して少しは会の雰囲気にもなれて来ました。そしてこのたび研修旅行に参加して和やかな雰囲気で一日を過し何人かの先輩や先生方と親しく話をする機会を得たことは私にとって大きな収穫でした。PTAで活動するには早く大勢の先輩の方と知り合い親しくなることが必要と思います。

これからは、わが身にムチうって諸会合に出席つもりです。それも教養部の努力目標の一つである諸会合の出席率の向上と時間の厳守をはかるための努力をすることが大切であると痛感しています。町内育友会でやっている朝の交通指導にも二回出て少しは要領を覚えました。

これからも幼い学童を交通禍より守るために努力していきたいと思います。PTAに仲間入りして親子共々新しい時代の教育に対して理解を深め、勉強出来ることを幸せに思っています。

先輩の皆さんのご指導とご鞭撻をお願いしてやみません。

§ § § § § § § § §

一会員

双葉から本葉が出て育ち変って行く様に、幼稚園から小学校と年令の上ではたった一才しか違わないのに、何かしらキリッとしたものが感じられるのは不思議なものです。

学校と云う中と半ばな甘さのない集団生活の中で、規則正しく授業を終え元気な声で帰って来た時には、本当にホッとするのは私ならずとも子を持つ親の心ではないでしょうか。

一年生にはお便り帳と云う家庭と学校との連絡機関がもうけられており、我子の学校での授業態度が分りますし家庭でのきづいた事、心配事を書いてやりますと、先生が適確な御返事をくださるのです。

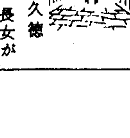
学校と家庭との協力なしには仲々達成出来ないと云われている子供の成長に本当に喜こばしい事と思うのです。

一年生になり、自己主張が強くなり俗に云う理屈が出始めたのも見のがせない事実ではないでしょうか。

一年生は兎に角、色々な事での基礎作りでありますから、先生と親との願いの中で真直ぐに育って行ってほしいと思うのです。

おいしいがんばになりたい

森本久徳



私には五人の子供がいます。長女が小学校に入学してから十二年になります。今まで授業参観には、妻ばかり出席しておりましたが、今年は長男（いちばん末っ子）が、小学校に入学したので、授業参観にはじめて出席いたしました。先生が幼い子供に対してご指導していらっしゃるのを見て保護者として授業参観の意味を知りました。他の保護者の皆様はおいしいがんばでしょうが、私は数年間、毒がんばであったと思います。先生のご指導を子供達と共によく勉強をして、家庭学習に援助してやる。それが子供達が素直に育つ源ではないでしょうか。また、おいしいがんばではないでしょうか。できれば多忙な皆様と共に、ふだん着のまゝで気軽に授業参観日には出席して、島原三小育友会名物のおいしいがんばになりたいと思います。

各部だより

☆教養部☆

教養部長　森本定義

教養部は会員の教養をたかめ教育に対する理解を深める目標に向って、それぞれ次のように部員を三班に分け専門的に分担し計画をたて推進をはかります。部の全体的な綜合企画については各班長及び副班長の連絡調整会を開き運営にあたります。

・学級班

踏会の出席率の向上と時間励行をはかるとともに、両親学級の企画運営にあたります。

教養部の学級班として班構成以来、早や三回の会合をもつ極めて熱意にあふれたのもしい班です。

班長さんは、鷺丘公民館に勤務の福田清春氏。班員は、三小青友会では、超一流の教育に熱心な会員で、また、学級班活動の経験も深いベテランが顔を並べています。

会合はこのベテランにとり囲まれて新班長の福田氏は、その人柄そのままに、いつも謙虚な態度で常に班員の意向を尊重し、一人でも多くの会員の声を聞きそれを活動に生かしたいと努力されている。

ところで、今までの会合で、おもしろい点を一つ紹介しましょう。

正メンバーは十二名であるが、いままでの会の顔ぶれからすると、その定員を、オーバーしているように感じられる。それは、御主人が出席できないときは奥様が代って出席するという有様です。このように十二名の協力者がいるということは誠に喜ばしいことで、今後の活動がおおいに期待される。

たゞ、まだ一回も全員の顔が揃ったことがないことは、出席率の向上を推進する本家本元としては、残念なことで奮起を期待します。

次に五月末までに次のような「両親学級の運営と、踏会の出席率の向上並びに時間の厳守について」のアンケートをとりましたが会員の皆様の御協力ありがとうございました。

・会報班

青友会報の編集発行のための企画運営をします。過去、年三回の発行を今年は四回（六月、九月、十二月、三月）発行する予定です。会報の発行にあたっては会員の協力を得て、その声をどしどし吸収し、よい会報の編集をはかりたいと思います。

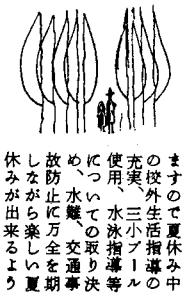
・文庫班

親の教養と読書欲を高めるとともに子供の読書欲を高めるようつとめます。今年は〝文庫だより〟を七月上旬に発行し保管図書を周知します。夏休み巡回文庫は例年にならい、各町代議員の協力を得て実施したいと思います。図書にあたっては会員の方々の興味をもたれるような図書を選定したいと思います。

・会員の視察研修旅行を五月十七日に部の全体会において決定し実施致しました。

☆生活部☆

芥孝夫



「三ない運動」

イ、交通事故を出さない。

ロ、非行者を出さない。

ハ、なまけ者を出さない。

この運動は三小全体の約束であり、私達生活部としては、本年も又強力に推進させようと話し合った鉄則です。生活部の仕事は毎日の積み重ねですが、年間行事として

◎七月に生活部会を開きます。

七月二十一日より夏休みが始まりますので夏休み中の校外生活指導の充実、三小プール使用、水泳指導等について取り決め、水難、交通事故防止に万全を期しながら楽しい夏休みが出来るよう町内推進連絡会合同の話し合いの場とします。

◎九月

九月に夏休みの反省をかね、二学期間における校外生活指導のこと生活部会を開きますが、家庭会議のこと、家庭内のしつけ等で親としての研修会を実施します。

◎十二月

二学期間の反省と、お正月を中心とした冬休み期間中における生活指導等のことで部会を開きます。

◎二月

三学期は期間も短いし直ぐ春休み、そして卒業もあわただしい期間ですが、特に子供達にとっては落ちつきを失う季節でもあり、一年間を反省し、最後の生活指導に力を入れたいと思います。

◎ソフトボール大会は中止

毎年三小青友会主催の夏休み中のソフトボール大会は特に待望のプールが完成するし、これに対する町内のお世話も忙しくなるので、今年は中止することに決めました。

◎海水浴のこと

三小のプールも夏休期間中、毎日利用はむづかしく、三日か四日毎に町内割当になりそうです。その間の海水浴の事故防止を当然考えねばなりません。うさぎ島の使用等実現に努力して水難事故防止に万全を期します。

☆施設部☆

施設部長　元島和男

本年度施設部の任務は青友会事業計画に基づき、宿願事業の早期実現にもあります。

七月の専門部会において決定されましたことは、学校の施設設備、営繕事項や、地域の教育環境を調査研究しその改善拡充に努力することで、具体的なものとしては、南校舎廊下に手洗場の設置、東便所前の渡廊下の板張り修理、木造二階校舎の周囲の排水溝の改修等の早期実現であります。地域の問題としては、子供達にとって危険な場所を町内毎に調査し、それを改善することに努力する。

川尻の四叉路に自動信号機設置を県当局に請願する。

青友会員の奉仕作業として、プール完成に伴なうプール周辺の美化作業にお父さん、お母さん方の汗流しをお願いすること等が協議決定され、まず施設部員が現場を踏査する必要があることから十五日学校参観日を利用し、学校長から現場の説明を聞きました。

今後は市当局と教育委員会に陳情し、一日も早く実現することを申し合せております。

簡単に実現出来ることではありませんが、青友会員の方々の御協力を戴き乍ら、会員の熱意と誠意をぶちまいて市当局を動かす以外に途はないと考えております。会員皆様の御ご力を心よりお願いする次第です。

研修旅行

植木寿郎

私、今迄何年も研修旅行にお供しておりますが今年の久留米金丸小学校のような所は始めてでした。

一、先づ校長がいない教頭も留守ならぬ前もって日時の変更をしても良いのではないでしょうか。

二、プールの見学維持管理と見学の趣旨は申入れてあるのにプールは荒れ放題、別にき麗にしてとは申しませんが草ぐらい取って置いても良いと思いました。

他にもありましょうが久留米市教委も誠意を持って見学者の気持になってお世話下さるならこんな事もなかろうかと思います。文句ばかり申して申訳けありません。

でもバスの中での和気あいあいに楽しく遊行出来ました事で気持が良くなりました事を同乗の皆々様へ厚く御礼申します。

新しい先生の御紹介

こんどの異動で次の新しい六名の先生をお迎えいたしました。

井口先生
四小より
四の一担任

榊原先生
三会小より
三の五担任

本多先生
長崎大学研究科
三の三担任

原田輝臣

五月十七日、十時二十五分目的地の久留米金丸小学校に到着した青友会の一行は、さっそく講堂に集合して、今度の研修旅行の目的であるプールの維持管理について体育の先生から説明をきき、その後プールを見せてもらった。

こういった旅行に参加するのははじめての経験であったが、青友会の八々が本当に真剣に学校の問題を自分のこととして考えられておる姿に接して、また感心させられた。それと同時に話しには聞いていたが、各小学校のプールがブリヂストンから贈られたものだそうで、実際にそのプールを見て実感とし驚いた。長崎と三菱以上にブリヂストンと久留米のつながりは、企業の発展がその地域の発展に結びついていく姿をまのあたりに見る思いがした。

さらには、お昼を石橋文化センターで過ごしたが、その思いは同じ、あれだけのものが市に寄贈され一般に解放されているのを見るにつけ、地域に密着した企業の偉大さを教えられた。そういった感想はさておくとして、現在日本ではプールが一つのレジャー用としての役割がその大部分を占めるようになってはいないだろうか。本来プールは水泳のためであり水泳は身体をきたえるためのものである。海にとりかこまれた日本が、海を相手として、海によって若い人達がきたえられた筈で、またそうなくてはならないのに、今では大腸キンだとか、工場廃水による汚染だとか騒がれ、海を目の前にして泳げないというおかしな結果を生じている。その代用が学校のプールであるならば、プールの活用法もおのづから自明のことで、三小にプールが出来る以上はその点を充分に考慮に入れて子供達を指導すべきであると思う。私はたにも海国日本など昔の考えを言う心算はないが、レジャーとしての役割を認めながらも、子供達にとつては、それ以前に、からだをきたえるそのためのものであるという考えを、根本に考えればならないと思う。そうしてこそプールも充分生かされるものだ。

園田先生
二小より
五の一担任

松崎卜先生
三会小より
六の二担任

草野先生
大三東小より
事務担当

学識経験豊富な方ばかりで毎日張切って子どもの指導にあたっておられます。

編集後記

青友会報「がんば」第十号をお届けします。

昭和四十二年度の会報班の反省と要望に立って、青友会の活動や学校の状況をなるだけ早く知っていっていたゞきたいという気持で、班員全員が協力して編集発行にあたりました。

不なれなため、ご満足いたゞけなかったと思いますが、今後の「がんば」発展のためにご指導いただければ幸いです。

なお、寄稿してくださった会員の皆様に心から御礼を申し上げます。

編集グループ

石橋正行先生　猪原孝舜　大島正助
多田和広先生　伊藤八郎　浜田五月
佐藤利宗先生　本田ハルミ　重野孝介
　　山本富太　島田教男
　　上田和代　小鉢京